

委員会	7 月 13 日
典礼委員会	7 月 6 日
子供のミサ	7 月 27 日
ヨゼフ会例会	7 月 20 日
愛の献金・教会建物を考える会	7 月 27 日



サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂 (フィレンツェ)



神の愛のあかし

主任司祭 小林 陽一



聖キリストフォロの話は、もう何度も聞いてよく知っておられると存じます。梅村司教様が、2007 年 4 月 8 日の司教教書で、神の愛を証しする力を育てる部門を各地区に設けることと言っておられます。聖キリストフォロの生き方は、神の愛を証しする方法について示唆を与えておりますので、ここにこの聖人の姿を、今一度取り上げることをお許しください。

この世で一番強い人の家来になりたいと願ったオッフエロという名の大男が、旅に出て、ある王様の家来になった。ところが、その王は誰かを恐がっている、様子を探ると、王は悪魔を恐がっていると分かった。大男は、この王様より悪魔の方が強いのだと理解し、城を出て悪魔を探し始めた。

ある晩、怪しげな一団から「お前は何者だ」と聞かれた。大男は「悪魔を探しているんだ」と答えた。「悪魔を探してどうするのだ」と再度聞かれた大男は、「俺は悪魔の家来になる」と答えた。すると、「俺達は悪魔だ」と言う声が、怪しげな一団からかえってきた。早速、大男は悪魔の家来になり、その一団についていくと、十字架のある建物の前にたどりついた。悪魔達は、十字架を見て、青い顔をして逃げ出し始めた。なぜ恐がるのかと聞くと、「キリストが十字架にかけられる出来事があってから、我々悪魔は、キリストの名前を聞くだけで力が失(な)くなってしまおう」と言った。悪魔よりもキリスト様の方が強いのだと悟った大男は、その建物のドアをたたき、出てきた修道士に会って、キリスト様の家来にしてもらう方法を聞いた。「キリスト様の家来になりたいのなら、病気の人、困っている人の味方になって、イエス・キリストの仲間になれば家来になれる」。修道士からここまで聞いた大男は、さらにびっくりするような話を聞いた。「この近くの流れの激しい河には橋も柵もない。みな困って、旅人を背中や肩にのせて河の中を歩いて渡って運んでくれる『川わたし』の人足を探している」と言う老修道士の話を聞いた大男は、「俺は、その『川わたし』の人足をやってみよう。困っている人の味方になって、イエス様の仲間になれば、きっとイエス様に会える。会って家来にしてもらおう」と言いました。

それから、大男は『川わたし』の人足の仕事を始め、来る日も来る日も休むことなく、何百人の人を助けて、『川わたし』の人足の仕事を続けました。しかし、イエス様に会えませんでした。

ある晩、「おじさん、おじさん」という子どもの小さな声が聞こえました。大男が声の主を探すと、3 歳くらいの坊やが窓の外に立っていました。

「おじさん、おじさん」。

「坊や、どうしたね」。

「ぼく、お父さんの所に帰りたい。この河の流れが早くて、河をわたれない」。

様子を察した大男は、坊やを肩にのせて河を渡り、中程まで来たら、身動きが出来なくなった。たまりかねて、大男が聞きました。「重い、重い。坊やはどうしてこんなに重いのですか」と大男が聞くと、坊やが答えました。「おじさん、重いのも無理はない。おじさんは、この世界を造った天地の造り主をおんぶしているのだから。私は世界の王、キリストである。オッフエロ、お前は河を渡れないで困っている人を助けてくれた。これからは、お前はキリストフォロ (キリストを運ぶ人) と名前を変えなさい」。

こうして、大男はイエス様と会うことができ、イエス様の家来 (弟子) になりました。

この話は、聖人伝ですが、最初の方は、成功を求めて世界を旅する出世物語でもありますので、話にすぐ引き込まれます。ところが、大男がこの人と思う人の家来になると、その人の弱点が出てくるので、大男は次々と主人を変えます。そして、悪魔と会った後、イエス様に会う方法を考えるに至って、神の国の教えをどうやって実行するかの話になって参ります。

イエス様は、この世の旅人として、旅の途中苦しんでいる幼いイエスの姿で現れ、大男に助けを求めました。キリストは姿を変えて、私たちが助けの手を伸ばすのを見ておられ、呼びかけます。この呼びかけに呼応して、私たちが手をよごし、足をよごすことが福音のあかしとなります。聖キリストフォロは、ごく自然に神の国の愛のあかしをしておられたのですね。



森脇 信行

私達、家族は平成13年4月から平成16年3月までの3年間、フランス共和国で生活していました。帰国し4年たちましたが、フランス生活のことやパリ日本人学校の事などを話すと自慢話のようになって、友人がいなくなるのではないかと心配し、気の小さな私はあまり話していませんでした。しかし、4年たつと記憶もだんだん薄れ、当時フランスで感じていたことなどだんだん忘れてきてしまいました。そこで、完全に忘れる前に海外生活を通して感じた事を記憶をたどりながら紹介していこうと思います。

私たちが暮らしていたのはパリから20kmほど西のモンティニー市という、日本人学校の近くの自然に囲まれた静かな場所でした。学校には野ウサギやカササギが遊びにきていました。また、グランドの片隅にはハコベ、ヒメオドリコソウ、キツネノボタンなど日本と同じ種類の野草が咲き、日本を思い出させてくれました。パリの緯度は日本より高いので(樺太と同じくらい)夏は夜10時すぎても明るく、反対に冬は朝9時頃明るくなり、夕方4時には暗くなりました。そのため、パリに住んでいる子ども達は真っ暗の中、バスで登下校をしていました。

日本人学校に通う子ども達はフランスという日本と違う社会にすみ、日本と違うものにふれあう機会に多く恵まれているのですが、実際は異文化の中で慣れない生活のため、日本人だけの閉鎖的な社会の中で活動していました。また、日本に比べると治安も悪いということもあり、どうしても過保護的になりがちでした。つまり、「フランスという海の中に浮かぶ日本人社会の島」で生活しているようなもので、フランス人との交流も多くはありませんでした。しかし、その分人との関わりを大切にする傾向にあり、また転出入の多い環境のため、お互いに思いやり、楽しく生活していました。



パリ日本人学校の航空写真

海外で生活していると、当然の事ながら観光や旅行で行ったときとは違った感覚で物を見ます。異文化体験などときれい事は言うてはいられません。とにかく『自分たちの力で生きていかなければいけない。』というところから始まります。まず、アパートを借りるところから始まり、家屋の保険から、電話や電気の契約など社会事情の異なる中で当初の生活が進んでいくという切実なものがあります。さらに、赴任したその日から仕事が待っています。他人様に頼ってばかりではいられません。言葉がわからなくても行動に移らなければ生活していけないのです。この生活する実体験の中で自己責任の意識の違いや、在り方については日本では想像もつかない厳しさがあることに気がつきました。



6月の要理学校だより

◆親の集い 6月15日 (11名出席)

6月の活動報告

- ◆6/15 美底リーダーから「イエスのみ心」についてのお話
『イエスさまの聖心は、どんなお心かしら。 「天におられる私たちの父よ・・・」 父なる神さまの聖心とイエスさまの聖心は、ぴったりとひとつ！
「聖心が行われますように、御国がきますように・・・」
父なる神さまもおっしゃいました。「これは私の愛する子。」
そして私たちも、イエスさまと同じ、父なる神さまの子どもにして頂きました。神さまは、子どもが大好き!!
イエスさまのように、病気の人、悲しんでいる人のために、私達も祈り、手を差し伸べたい・・・イエスさまの御心と一つになりたい・・・できるかな、ちょっと心配。
私たちの頂いた神さまの恵み(聖霊)の賜りである喜び、慰め、祈りは、分かち合えば合うほど、どんどん増える・・・それが神さま(三位一体)の不思議、秘密。(^^)・・・しんじられない・・・そうだね・・・。聖霊にお祈りしよう！御聖体を頂こう！ゆるしの秘跡も！それから教会の人に聞いてみよう！ 心の中のイエスさまの光を消さないように・・・。
ちょっと難しかったかな・・・。父の日だったので、カードを書きました。「今日はお父さんと一緒に主の祈りを唱えて、一緒にご飯を食べようね！お父さんありがとう！」 (M, M)

◆6/22 ジャがいも収穫 保科リーダー

今にも降り出しそうな梅雨空の中、皆でジャガイモ掘りをしました。立派なジャガイモがたくさん採れました。



7月の活動予定

- ◆7/20 合宿についての説明会と準備
- ◆7/26～27 夏期合宿 於：中和田教会 谷脇神父様をお招きして！

その他

- ◆教会学校傷害見舞金制度に加入 6/19より契約
- ◆夏期合宿について、スケジュール、注意事項など詳細にわたって検討する
- ◆子どもたちのジャがいもをミサで奉納し、その後フライドポテトにしてサロンで皆さんに試食して頂きました



『愛の献金を考える会』： 報告と提案

小野 雅彦（座長）

計4回にわたって、愛の献金に関する話し合いを行いました。

＜メンバー（敬称略）： 石井、石川、岩崎、竹内、山田、山本、小野＞

以下は結果の纏めですが、これは結論とか決定ではなく、信徒の皆様に対する提案です。また内容的にも、未だ基本的な枠組みや仕組みについて検討した段階です。今後は、福祉グループが中心となって、具体化や実行計画の策定をしていきますが、是非信徒の皆様の忌憚のないご意見をお願いします。

言うまでもないことですが、愛の献金は教会全体としての重要な『祈りと意思の表明』であり、信徒全員の祈りと一致した結果でなければなりません。この視点から、是非信徒の皆様の積極的なご参画をお願いする次第です。

■ 全体の枠組みについて：

✦ 現時点で3つの“財布”あり：

- (1) (月定)愛の献金
- (2) バザー収益からの献金（目安50%）
- (3) 旧マリア会／婦人会から委員会に引き継がれたプール金

✦ これらを、一つの『愛の献金』に統合する

- ◆ 一つの財布にして、単純化してわかり易くする
- ◆ 従来中和田教会で『愛の献金』と言えば(1)のみを意味していたが、これを(1)～(3)全体の意味に拡張する

■ 運営の仕組みについて：

✦ 信徒からみて、『よく見える、わかり易い』仕組みとすることを優先する

✦ 現在の“中和田方式”の(月定)『愛の献金』納付は、その主旨は信徒の方々に再度説明徹底が必要なるも、教会としての献金の『核』であり、このまま踏襲していく。

- ◆ 指定献金、特別献金の日には、信徒に説明を徹底する（ミサに先立って先唱者が主旨説明）
- ◆ (月定)愛の献金の納付率が低いという課題あり。これについても信徒の方々に理解頂き、協力をお願いする場が必要（別途、実行計画策定の過程で起案する）

✦ 献金の対象は、

- ① 教区主導の献金、地域への献金、及びその他外部団体(✦)への献金
- ② 内部での使用（高齢者対応など）
- ③ 内部留保（突発的必要性への対応）

に分けて考え、各々について計画を策定していく。

また、基本的な考え方としては、

- 1) “ばら撒きの”には行わない
- 2) 身近なところから重点的に行っていく。海外は、教区またはカリタス・ジャパン経由に一元化する
- 3) 今後、とくに

◆ 高齢司祭の支援のみならず、次世代を担う司祭・修道者の育成に留意していく

◆ 信徒の寄付だけで経営している修道会（例えば御受難会）の支援に留意していく

✦ とくに上記(✦)については、献金先の選定基準を明確化してガラス張りにする。

選定基準については下記条件を満足することを基本とするも、画一的な運用ではなく弾力的に考えていく

- ① 過去から継続的に献金して来た経緯がある
- ② 献金先に従来から関わって来られた方が中和田教会にいる
- ③ 現在も、経済的に困窮している
- ④ キリスト教的運営が為されている（指導司祭や修道会が運営に深く関与している）
- ⑤ 決算報告、説明がきちんと期毎に行われている（「どのように使われたか」が見えること）

上記以外に、

⑥ 教区、またはカリタス・ジャパンからとくに要請がある案件については優先的に取り扱う

✦ 『愛の献金』の運営主体は、献金先の選定先起案（一主任司祭／教会委員会）を含めて福祉G



典礼こよみ（7月）

日	曜	ミサ・勉強会	備考
2	水	聖書勉強会（10時より）	
4	金	初金ミサ	掃除1G
5	土	主日ミサ（18時より）	
6	日	年間第十四主日	主日ミサ（9時より）
9	水	聖書勉強会（10時より）	
12	土	主日ミサ（18時より）	掃除2G（9時30分）
13	日	年間第十五主日	主日ミサ（9時より）
16	水	聖書勉強会（10時より）	
19	土		掃除3G（9時30分）
20	日	年間第十六主日	主日ミサ（9時より）
23	水	聖書勉強会（10時より）	
26	土	聖ヨアキムと聖アンナ	祝日ミサ（10時より）
27	日	年間第十七主日	子供と共に捧げるミサ（9時より）
			教会掃除日、愛の献金・教会建物を考える会

委員会だより

△6月8日(日)

10名出席



小林主任司祭挨拶
 菊名教会の献堂式に出席した。式典、祝賀会を通して「若い人と共に歩む」ことの大切さを実感した。

■審議事項

●教会委員会の運営方法

小林神父様が中和田教会主任司祭に着任されて1年余を経過し、教会委員会の運営方法を議論した。当面は現状通りの運営とするが、『中和田カトリック教会委員会運営規定(07.11.12改定)』をベースに継続検討する。

●第5地区共同宣教司牧委員会の宿題(集会祭儀関連)

集会祭儀(ミサではない御言葉を中心とした祭儀)には色々な形があるが、①結婚式②お通夜③追悼の祈り④司祭不在の主日の集会祭儀、の4ケースにつき「信徒の奉仕者による司式が必要な場合」にどのような準備が必要か話し合う場を設ける。本件につき、6/29の典礼グループミーティングを拡大し信徒の皆さんの参画を依頼する。

■各グループ連絡・報告事項

a. 営繕G

●5月度工事…新集会室2Fエアコン老朽化に伴う交換2台、新規設置1台完了。消火器交換4本完了。
 ●耐震診断の件…耐震診断見積結果は35万円。本件に関し、単なる診断結果だけではなく、補強すべき部位、補強法、並びに工事費概略見積など、次の行動に移れる資料とするよう要望あり。
 ●アスベスト関連…05年10月に労働衛生調査分析センターの検査を受けたが、本年2月の厚労省通達

で対象アスベストが3種類から6種類に増えた為、再度検査が必要。分析および工事に関し、藤沢教会に相談する。

b. 財務G

●5月度財務報告のトピックスとしては、プリンタ、エアコン、4/6月分教区分担金支払など。概ね予定通りに進捗している。

c. 行事G

●信徒の皆さんに、今後いろいろな形で「2点献品」をお願いしていく。とくに男性にお願い。
 ●本年バザー実行担当のバザー委員会とは別に、バザー運営の基本的課題について話し合う場を持つ。

●6/8カトリック新聞掲載の鍛冶ヶ谷教会島義明氏投稿に留意。

d. 宣教G

●教会学校で使用するDVD投影機材の購入と機種を委員会で決定
 ●教会学校で、6/22ミサ終了後ジャガイモの収穫を行う。(一部先行して6/22ミサで奉納)

●教会学校の夏期合宿に谷脇神父様に来て頂けることとなったので、準備願いたい(小林神父)

e. 広報G

●広報なかわだ投稿に関し、一層の協力を依頼。取敢えず、「教会建物を考える会」と「愛の献金を考える会」の進捗報告を準備

f. 福祉G

●「愛の献金を考える会」の結果報告を行った。詳細は「広報なかわだ」で報告するが、中和田教会としての基本的な考え方を提案している。考える会として話し合っている。ここで終了し、具体化については福祉Gに一任することに決定。

g. 事務G

●ミヤンマー、四川省災害の義援金…教区と相談、結果として中和田教

会からカリタス・ジャパンに直接送金することとした。6/15から、この為の募金箱を設置する。

08年6月委員会後記 小野委員長

●別項で結果を報告しましたが、「愛の献金を考える会」で4回にわたるお話し合いを行いました。まだ基本的方向付けの段階ですが、今後は福祉グループを中心に具体化を進めていく予定です。愛の献金は信徒全員の祈りの表明です。是非、これからの具体化や計画づくりに、信徒各位の参画をお願い申し上げます。

●6月29日の主日ミサの後で、小林神父様を囲んで「集会祭儀」に関するお話し合いの場が持たれ、20余名の方々が出席されて熱心な討論や質疑が行われました。集会祭儀に関わる理解を深めて具体化することは、第5地区共同宣教司牧委員会を軸に、(主任司祭が常駐しておられるか否かに関わらず、また教会の規模が大きい小さいに関わらず)全ての小教区(教会)に求められており、既に多くの教会で活動が行われております。今後、典礼グループ等を中心にいるいろいろな勉強の場が持たれる予定です。信徒各位には是非参画をお願い申し上げます。

●6月29日に4名の方々が洗礼を受けられました。心よりお祝い申し上げます。信徒にとつて、洗礼式に立ち合うことが出来て、新しい信徒の方々と共同体の中にお迎えすることは、いつもこの上ない喜びです。有難うございました。

お知らせ

洗礼

ヨゼフ 富樫とがし義明さん

ペトロ 勇樹ゆうきさん

マリア ありささん
 (和泉町在住)

マリア 松下真弓さん
 (瀬谷区在住)

堅信

ヨゼフ 富樫義明さん

マリア 松下真弓さん

初聖体

ヨゼフ 富樫義明さん

マリア ありささん



7月26日(土)は聖マリアの両親聖ヨアキムと聖アンの記念日。祝日ミサは10時から。

